

平成27年度学校評価実施報告書

次のとおり学校評価を実施しましたので報告します。

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
<教育課程> (1)生徒の多様なニーズに応じた柔軟なカリキュラムを展開する。 (2)三修制の学習機会を充実させる。	(1)1年生に関して早い時期に個別指導が必要かどうかを判断し、取出し授業や個別指導を行うなど個に対応した柔軟なカリキュラムを展開する。 (2)3年間の卒業を目指す生徒のために、通信制高校との連携や学校外の学修による単位認定制度を活用するほか、就業体験活動の単位認定により進路への意識づけを図ることによって、生徒の学習意欲の向上を図る。	(1)個別学習指導が必要な生徒の把握を十分行ない、取出し授業の実施や個別指導プログラムを作成できたか。 (2)三修制のガイダンスから、卒業後の進路についての意識づけを行い、三修制希望者の学習意欲向上につながったか。	(1)ケース会議で対象とした生徒について、個別指導プログラムを作成することができた。柔軟なカリキュラムを展開した結果、個々の生徒に対しきめ細かに対応し成果を上げることができた。 (2)三修制を利用した今年度の卒業生は11人であったが、卒業後の進路への意識は高く、そのうちの8人が大学進学や就職等の進路決定を果たした。また、インターンシップや検定試験受験等による単位認定制度も軌道に乗り、一定数の生徒が意欲的に取り組んだ。	(1)個別指導プログラム作成において、生徒個々の目標を短期的及び長期的な観点から明確化する必要がある。また目標達成に向けての手だてを講じるために、教科間のさらなる連携が求められる。 (2)本年度の就業体験活動は、昨年度に比べ希望者が少なかった。自らの進路を検討するための重要な機会という生徒への意識づけのために、一層の啓発の工夫が課題である。	(保護者) 子どもが三修制で卒業したいという希望を持ち努力している。 (学校評議員) 生徒一人ひとりのニーズに合わせた指導をするために努力している。	(1)個別指導を実施するなど生徒のニーズに合わせた柔軟な教育活動を展開した。教科間の連携を深めさらに指導を充実させる必要がある。 (2)生徒や保護者の三修制についての理解は深まっている。多様な学習機会の提供に向けさらに検討を重ねる。
<生徒指導・生徒支援> (1)生徒個々に応じた教育相談体制を充実させる。 (2)生徒指導の徹底により、ルール・マナーや交通安全を尊重する態度と規律ある学習環境を構築し、生徒が安心できる学校環境を整える。	(1)①教育相談コーディネーターと養護教諭が中心となり、定期的にケース会議を行う。 ②生徒の日常の様子、出席状況をきめ細かく把握し、保護者への連絡を密にとる。また、面談週間を各学期に設定し、本人・保護者の相談に対応する。 (2)①日常的な巡回指導により、生徒との信頼関係を構築するとともに、安全・安心な校内環境を築く。 ②授業や学校行事など、様々な場面で規範意識や安全に対する意識を高める工夫を織り込む。	(1)①ケース会議、拡大ケース会議を定期的に行ない、教職員全員で生徒情報を共有し、個別の支援体制を充実させることができたか。 ②日常生活や出席状況・欠課時数等を保護者に定期的に連絡することにより、保護者との協力関係が築けたか。 (2)①巡回指導により落ち着いた校内環境を築き、問題行動の減少につなげることができたか。 ②様々な場面での取り組みが生徒の規範意識・安全意識の向上につながり、学習環境を整えることができたか。 (生徒アンケート)	(1)①年間計画を作成し、定期的にケース会議を実施することができた。計画に応じて巡回相談を利用できた。 ②学期末テスト後に面接週間を設定しての三者面談が定着している。保護者との意思の疎通が確立されている。 (2)①②職員の惜しみない協力により、校内外の日常的な巡回指導が効果的に実施できた。そのため全学年、授業に集中して取り組む姿勢が育成され、落ち着いた雰囲気の中で授業ができるようになった。また、日常的な生徒指導に加え、年2回のいじめ防止アンケート、交通安全教室、薬物乱用防止講座の実施により、生徒の規範意識・安全意識の向上を図り、学習環境を整えることができた。特に交通安全に関しては、車両通学者に対しての指導をきめ細かく行い、交通安全に対する意識の向上に努めた。	(1)①SC(スクールカウンセラー)の利用が多かったが、来校日数が少ないため希望に十分対応することができなかった。事例によってはSSW(スクールソーシャルワーカー)の支援が必要であるが、拠点校が他校であり気軽に相談することができなかった。SC来校日の増設、SSWの増員等を望みたい。 ②保護者の都合上面接時間の設定ができない場合があり、調整が難しい。 (2)①②校内での問題行動は減少し、生徒は以前より落ち着いた雰囲気の中で学校生活を送っている。校外からの苦情や問題行動も減少した。校内行事への参加にも、積極的に取り組もうという姿勢が見られ、「ルールを守る」意識が向上した。この傾向が持続するよう、指導を継続したい。また、職員全体で協力し、生徒指導面で改善点なども話し合い、今後の指導の向上につなげて行きたい。	(保護者) 個別面談では学校での様子や進路についての情報を得ることができた。 (学校評議員) 生徒理解に根ざした日常の生活指導を丁寧に行っている。 SCやSSWの活用をさらに進める。	(1)個々の生徒に応じた組織的な支援が実践できた。また、特別支援学校や児童相談所、市役所等の外部機関と連携して指導の充実を図った。今後もさらに支援体制を充実させる必要がある。 (2)職員の日常の指導により、全体的に問題行動が減少し学校が落ち着いている。今後はさらに社会性を身につけさせモラルを高めるための効果的な指導を検討していく。

<p><学習指導・授業改善></p> <p>(1)基礎学力の定着を図るため、新たな授業展開を開発する。</p> <p>(2)社会生活に必要なコミュニケーション能力をはぐくむ取組みを充実させる。</p>	<p>(1)①全体で研究授業に取り組み、校内研修会をとおして本校の課題を共有し、授業改善に繋げる。</p> <p>②基礎学力と学習習慣を定着させるための年度初めの1年生の学習形態をさらに発展させ、また1年生の数学の授業を習熟度別に行うことで個々の生徒の実態に合った授業を行う。</p> <p>③長期休業中の学習会の内容を充実させ、各学年の生徒に適した指導を行う。</p> <p>(2)「総合的な学習の時間」等を活用し、生徒相互のコミュニケーション能力を高める。</p>	<p>(1)①校内研修会で課題を共有することによって授業改善に繋げることができたか。</p> <p>②1年生を対象とした新たな学習形態及び習熟度別授業を継続・発展させることができたか。</p> <p>③長期休業中の学習会の内容が充実し生徒に適した指導ができたか。</p> <p>(2)「総合的な学習の時間」の中で、生徒が自ら考え判断して自分の考えを伝えることができたか。</p>	<p>(1)①「生徒による授業評価」の1回目の結果を総括し、各教科で総括し情報共有することによって2回目の結果はほとんどの教科で改善された。</p> <p>②1年生の数学Iにおいて、3クラスの習熟度別に授業を実施することで生徒の理解度が上がった。また、教員側も生徒の理解度を把握しやすくなった。到達度の高いクラスでは生徒同士が教えあったり切磋琢磨したりする場面が見られるようになり、学習意欲向上に繋がった。到達度が低いクラスにおいても個々の生徒の理解度が上がった結果、前向きに授業に取り組むようになった。</p> <p>③夏季休業中に1年生には基礎学力の定着、2～4年生には学力アップを目的とした夏期講座を行い、自らの達成度に合わせて各教科が用意した教材に取り組みせることで学力向上に繋がった。</p> <p>(2)「総合的な学習の時間」では体験的内容やグループ学習を取り入れ、生徒が考え自ら判断し、自分の考えを伝えることができた。</p>	<p>(1)①授業改善に関して職員間の意識向上が見られたが、常勤職員と非常勤職員では教科指導や生徒指導に対する意識にどうしてもギャップが生じてしまう。</p> <p>②到達度が低いクラスに行き楽をしたい生徒もいて、クラス分けが難しい。また、生徒同士の人間関係も加味しながらクラスを決めなければならないため、密に学年と情報交換したい。今後は他の教科でも同様の取組を推進したいとの意見が出ているが、非常勤講師時間の配当等条件整備の面で課題がある。</p> <p>③夏期休業中の講習に関しても希望者の参加が主だが、指名した生徒を参加させることも視野に入りたい。また、全日制の教育活動との調整を図る必要があり、制約が多い。</p>	<p>(保護者) 基礎的な学習の内容がわかることで自信がつく。</p> <p>(学校評議員) 基礎的・基本的な知識や技能を身につけることは実社会に出る上で大切である。習熟度別授業の展開や夏季講習の実施などさまざまに努力している。</p>	<p>(1)基礎学力定着に向けて、モジュール授業や長期休業中補習等を行い成果が上がっているが、生徒の積極的な学習への取組を引き出すため、組織的な授業改善の取組をさらに進める必要がある。</p> <p>(2)総合的な学習の時間において、生徒のコミュニケーション能力及び自ら判断し行動する力を高めるような指導ができた。</p>
<p><キャリア教育></p> <p>(1)キャリア教育をさらに充実させ、生徒個々の進路意識を高める。</p> <p>(2)集団の中で社会性を培うため、生徒主体の行事や活動を支援し、自己肯定感を高める。</p>	<p>(1)①1～3年生に対する多様なガイダンスを企画・運営し、キャリア教育実践プログラムを体系的に実施することで生徒の進路に対する意識を向上させる。</p> <p>②卒業予定者の進路指導の日程を早めに設定する。</p> <p>(2)生徒の主体的活動の場や発表機会を設け、多くの生徒の学校行事への参加を促す。</p>	<p>(1)①1～3年生の生徒の進路に対する意識を向上させることができたか。</p> <p>②就職および進学希望者が確実に進路を決められたか。</p> <p>(2)①生徒主体の活動の場(生徒会・部活動発表等)を設定し、内容の充実が図れたか。</p> <p>②学校行事に8割以上の生徒が参加したか。</p>	<p>(1)①総合的な学習の時間やLHRを使った進路アンケート、卒業生の進路状況等の解説など通して生徒の進路に対する意識を向上させることができた。</p> <p>②早くから進路に対する意識の高い生徒を中心に進路が決定していったが、進路が決まらないまま卒業する生徒も少なからずいる。</p> <p>(2)①生徒数が減少する中で、それぞれが活動の場面を設定し、充実した内容となった。</p> <p>②どの行事にも8割以上の生徒が参加したと思われる。</p>	<p>(1)①4年間の段階的な進路指導は計画的に進められており、キャリア教育実践プログラムとして定着しているが、学習障害等さまざまな困難を抱えている生徒の進路保障についても、学校外の機関と連携しつつ実績を上げていく必要がある。</p> <p>②自らの進路について向き合えない生徒に対して、どのように働きかけていくかが課題である。</p> <p>(2)①さまざまな生徒会行事や部活動を生徒主体で行わせることで、生徒の成功体験を増やし自己肯定感を高めていく。</p> <p>②参加率が安定してきたので、生徒一人ひとりがより主体的に取り組めるよう工夫する。</p>	<p>(保護者) 子どもが早い段階から卒業後の進路を意識するようになった。</p> <p>(学校評議員) 生徒一人ひとりに丁寧な指導をしており十分な成果が上がっているとの、継続してほしい。</p>	<p>(1)折に触れてガイダンスを実施し、体系的にキャリア教育を進めた。1年次からの個々の生徒の進路意識を向上させる指導を検討する。</p> <p>(2)生徒の学校行事への取組は向上しているが、多くの生徒が主体的・積極的に取り組めるよう工夫を重ねていく。</p>

<p><地域等連携> (1)保護者や地域との連携を深めると同時に、外部人材の活用を推進し、教育活動を効果的に展開する。 (2)ホームページ、学校案内等の広報活動を充実させ定時制への理解を深める。</p>	<p>(1)①メール配信の積極的な利用により保護者への連絡を密に行い、授業等の見学や学校行事への参加を促す。 ②卒業生や保護者、地域の人材を活用した学校支援ボランティアの制度の立ち上げに向け検討する。 (2)①学校案内やホームページ等を活用して生徒の活動や活躍を紹介し、本校定時制の教育活動を広く発信する。 ②広報用の学校案内をさらに充実させ、本校への理解を深める。また、中学校教員に向けた情報発信を行い定時制への理解を深めることで、適切な進路指導に繋げる。</p>	<p>(1)①学校への保護者の来校数が増加したか。(保護者アンケート) (2)①学校案内等を通して生徒の活動を積極的に広報することができたか。 ②学校案内をさらに充実させ、本校への理解を深めることができたか。</p>	<p>(1)①メール配信を利用した家庭への連絡を増やし、学校行事への参加等と呼びかけた。 ②以前からの学校支援ボランティアの方には効果的に支援していただけたが、制度を立ち上げるための検討には至らなかった。 (2)①学校案内を見やすくし、広く本校について情報を発信し広報することができた。 ②学校案内のパンフレットを今年度用に作成した。写真も新たにし、見やすくなるよう変更した。 また新たな取組として中学校訪問を実施し、中学校の教員に直接本校についての情報を発信したことで、本校への理解が深まり適切な進路指導に繋げることができた。</p>	<p>(1)①メールの登録率が低く連絡の徹底には至っていないため、メール登録率向上のための更なる工夫が必要である。 ②制度の立ち上げに向け、学校理解を深められるよう積極的な広報活動が必要である。 (2)①ホームページを誰にでも改訂できるようなソフトで作成できないか。また、全定同一の限られたホームページの容量の中で更なる厳選をし、生徒の活動を積極的に広報していく。 ②新たな学校案内パンフレットを積極的に活用し、本校への理解に繋げていく。特に中学校への広報を工夫し、定時制課程や本校についての理解を深めてもらえるようにする。 中学校訪問については今年は管理職が行ったが、本校への理解が深まったという手応えが感じられたため、次年度以降学校としての取組に発展させていくことで、中学校と連携した進路指導に繋げていく。</p>	<p>(保護者) 子どもたちが地域の力になっていることを実感できるようになるとよい。 (学校評議員) 入学志願者が減少していることもあるので、中学生に本校定時制の教育活動を理解してもらえるような工夫が必要である。</p>	<p>(1)日常の生徒指導を徹底して地域からの信頼を高める努力をした。生徒の地域貢献活動等をおとして地域との連携を強める必要がある。 (2)定時制の教育活動についての理解を深めてもらうために、ホームページを含めて情報発信力を高める方法を今後も検討していく。</p>
<p><学校運営・学校管理> (1)新たな教育活動を展開するとともに、その検証により学校運営の改善に取り組む。 (2)事故・不祥事の防止を徹底することで信頼される学校づくりを進める。</p>	<p>(1)従来の課題や新たな取組について検討を重ね学校改善につなげる。 (2)生徒指導や教育相談、事故・不祥事の防止に係る教員対象の各種研修会を企画・実施する。</p>	<p>(1)学校の課題と改善方を明らかにする中から新たな取組を企画し、学校改善につなげることができたか。 (2)各種の研修会を通して教員がさらにスキルを高めることができたか。また、事故・不祥事ゼロプログラムを効果的に実施し、事故防止が図れたか。</p>	<p>(1)グループやセッションごとに業務についての検証をすることにより、課題が明らかになり、内規の見直しや業務改善を行うことができた。 (2)「事故・不祥事ゼロプログラム」に基づき、教員対象の研修会を毎月行った。また、外部講師を招いた研修会等も開催し、事故・不祥事防止に繋げることができた。</p>	<p>(1)グループ・セッション内での意見交換は十分に行えたが、職員全体での意見交換の場面を増やすことで、学校全体として課題に取り組めるような体制作りを行う。 (2)職員が当事者意識を持って事故・不祥事防止に取り組めるよう、より一層工夫を重ねる必要がある。</p>	<p>(学校評議員) 教育活動充実のために職員が協力して取り組んでいる。</p>	<p>(1)生徒指導規定の検討等を含め、職員の組織的な業務改善の取組を進めた。 (2)不祥事防止研修等に職員全員で取り組んだ。マニュアルに沿った業務遂行を徹底し事故不祥事の未然防止に努める。</p>